

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	0174600577		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホームふれあいみなみ野館		
所在地	〒080-0027 帯広市西17条南41丁目4-14 (電話) 0155-49-6330		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年5月12日

【情報提供票より】 (平成 21年 1月 30日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 2月 26日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 ～38,000 円	その他の経費(月額)	24,000～29,300 円
敷金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		700 円

(4) 利用者の概 (平成21年 1月 30日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護 1	2 名	要介護 2	3 名
要介護 3	4 名	要介護 4	0 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 78 歳	最低 59 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北斗病院 ・ なりた歯科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、静かな新興住宅地の中に立地し、周囲の建物にとけこんだ違和感の無い造りとなっている。職員は、体力低下を防ぐために廊下を利用し、手押し車等の器具を活用しながら歩行訓練や体操など、個々の利用者の状態を尊重した理念に基づく支援を行っている。管理者は認知症の特徴を理解し、職員は日々日常の業務の中で話し合いを行い、できる事を見守り共に支えあう関係を築いており、家族との関係も良好である。共有部分に使いにくい所もあるが職員が工夫して補い、熱意をもって利用者に対応している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の改善課題であった地域との交流は、運営推進会議を通して地域と交流を進め、行事参加なども町内会を通し参加を呼びかけている。地域交流が進んできており、少しずつ地域の理解者も増えている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価は、全職員で取り組み、それぞれの気付きについては会議で話し合っている。職員は、自己評価や外部評価の意義を理解し改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、事業所の運営状況、利用者の日常の様子等について報告している。外部評価の結果等については、自己評価と共に次回の会議でも報告予定である。意見交換会で出た意見は職員と話し合いながら、ケアに反映させるように努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	外部の苦情窓口を事業所内に掲示している。家族訪問時には、コミュニケーションを深め、意見や不安を聞くようにしている。運営推進会議でも話しやすい雰囲気作りをし、意見を言いやすいように工夫をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内会に加入し、地域の行事にも参加している。事業所の便りも地域に回覧を通し広報している。若い世代の住民が多い地域であるが事業所の行事へ参加を呼びかけるなど、地域との連携を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念をつくりあげている。職員は、安心した暮らしを続けていけるケアをめざしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で理念を共有し、実践に向けて会議やカンファレンスなどで話し合い、ケアに活かしていけるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内行事がある時は参加のできる利用者と一緒に参加している。また、近隣住民へは事業所便りを回覧をしており、事業所の行事には参加をよびかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、職員全員で取り組み、会議で話し合い、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。事業所側の報告に終わるのではなく、質問や意見にも答え、出された意見は職員と話し合いサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて市と相談や連絡などをとり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭管理については便りと共に毎月家族に報告している。また、家族の訪問時に健康状態や生活の様子を知らせているが、急な体調変化の際には、随時電話連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に家族から意見を話しやすいような対応に心がけている。運営推進会議で、意見を言いやすい雰囲気作りをしている。また、苦情受付の外部窓口を紹介するポスターを掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職があったときは法人内の支援を受けるなど、全職員で利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は社内・社外の研修を受けている。しかし、職員（スタッフ）は社内研修のみを受けるにとどまっている。	○	外部の研修は職員のフォローアップにつながるので、勤務シフトを工夫するなどによりスタッフにも積極的に外部研修へ参加できる体制の構築を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流があるが職員（スタッフ）は交流する機会がない。	○	同じ法人内の事業者と2ヶ月に1度の学習会を開くなどしてケア向上に取り組んでいるが、さらに、他の事業者との職員間交流を行うことなどにより、サービスの質の向上に取り組むことを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者と介護支専門員が面談し、本人と家族がなじめるよう利用前に事業所を訪問してもらうなどの配慮をしている。訪問時には、おやつと一緒に食べてたり、中には入浴をしていく方もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできることを把握し、できないことを把握し、できる事については自分で、できないことについては支援をしている。古い諺や言葉遣いなどのほか、おせち料理などの料理の味付けや洋服づくりなどを利用者から学んだり支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者の一人ひとりの意向を把握し、困難な場合は表情などから読み取り、本人の希望に沿えるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に意見、希望を聞き介護支援専門員と職員全員参加によるカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的に見直しているほか、見直し前に状態が変化した時は、本人・家族・主治医などと相談し、介護支援専門員と職員全員参加により見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所のバスで近くの施設利用者と一緒に紅葉狩に行くなど交流を行っている。通院介助や送迎など、本人や家族の要望に応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への通院支援や相談への対応も行っている。看護職員が日常的に相談に答えるなどの健康管理を行うほか、家族と連携し通院を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時などに家族と話し合い、重度化した場合や終末期のあり方について早い段階で、同意を得ている。協力医療関係機関と連携をとりながら終末期の方向性を決める体制にある。職員と話し合いを重ね全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の対応に誇りやプライバシーを損ねるようなことは無く、個人情報の取り扱いにも十分気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の中で一人ひとりのペースを大切にしながら、調理・ゴミ出し・体力低下予防運動などのそれぞれの役割をもち、その日の個々の希望にそった支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせてお粥・刻み食などを提供し、麺・パン・ご飯などが自由に選択できる場も設けている。食事が楽しみなものとなるよう、盛り付けにも工夫しており、準備・後片付けなども職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から金曜日までは、いつでも入浴ができるように支援している。入浴を楽しめるよう入浴剤を入れたり、入浴後、肌の手入れ等を行っている。また、個々の状態や希望に合わせてシャワー浴や清拭も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴によって役割分担が自然とできている。楽しみにつなげる様な体操や、職員の弾くキーボードに合わせて歌を歌うなど、取り組みを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿って散歩や買い物などに出かけている。外出を好まない利用者には、ベランダなどを利用してテーブルと椅子を配置し、食事やお茶を楽しみながら、外気浴をするなどの工夫した支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を良く理解しており、鍵をかけずに見守り、声かけなどにより対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回定期的に行っている。なお、運営推進会議のメンバーの参加もあり、町内会や運営推進会議を通して地域の人々に協力を働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表で管理している。食事制限のある利用者もいるが、個々に摂取量の違いを把握し水分量も一人ひとりの習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光が入らないように配慮している。職員の描いた利用者の似顔絵や手作りの装飾など、季節感が感じられる工夫をしている。また、脱衣所やトイレなどの共用部分を、職員のアイデアを取り入れ、建物の構造を上手く活用し居心地のよい共用空間をつくるた取り組みを行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	姿見鏡・タンス・ソファなど使い慣れた好みの物を活かしたり、家族の写真を飾ったりと本人の希望に添った対応をしている。また、利用者によっては、仏壇を持ってきている人もいる。		

※  は、重点項目。